

「九条の会」アピール

日本国憲法は、いま、大きな試練にさらされています。ヒロシマ・ナガサキの原爆にいたる残虐な兵器によって、五千万を超える人命を奪った第二次世界大戦。この戦争から、世界の市民は、国際紛争の解決のためであっても、武力を使うことを選択肢にすべきではないという教訓を導きだしました。

侵略戦争をしつづけることで、この戦争に多大な責任を負った日本は、戦争放棄と戦力を持たないことを規定した九条を含む憲法を制定し、こうした世界の市民の意思を実現しようと決心しました。

しかるに憲法制定から半世紀以上を経たいま、九条を中心に日本国憲法を「改正」しようとする動きが、かつてない規模と強さで台頭しています。その意図は、日本を、アメリカに従って「戦争をする国」に変えるところにあります。そのために、集団的自衛権の容認、自衛隊の海外派兵と武力の行使など、憲法上の拘束を実際上破ってきています。また、非核三原則や武器輸出の禁止などの重要施策を無きものにしようとしています。そして、子どもたちを「戦争をする国」を担う者にするために、教育基本法をも変えようとしています。これは、日本国憲法が実現しようとしてきた、武力によらない紛争解決をめざす国の在り方を根本的に転換し、軍事優先の国家へ向かう道を歩むものです。私たちは、この転換を許すことはできません。

アメリカのイラク攻撃と占領の泥沼状態は、紛争の武力による解決が、いかに非現実的であるかを、日々明らかにしています。なにより武力の行使は、その国と地域の民衆の生活と幸福を奪うことでしかありません。一九九〇年代以降の地域紛争への大国による軍事介入も、紛争の有効な解決にはつながりませんでした。だからこそ、東南アジアやヨーロッパ等では、紛争を、外交と話し合いによって解決するための、地域的枠組みを作る努力が強められています。

二〇世紀の教訓をふまえ、二一世紀の進路が問われているいま、あらためて憲法九条を外交の基本にすえることの大切さがはつきりしてきています。相手国が歓迎しない自衛隊の派兵を「国際貢献」などと言うのは、思い上がりでしかありません。

憲法九条に基づき、アジアをはじめとする諸国民との友好と協力関係を発展させ、アメリカとの軍事同盟だけを優先する外交を転換し、世界の歴史の流れに、自主性を発揮して現実的にかかわっていくことが求められています。憲法九条をもつこの国だからこそ、相手国の立場を尊重した、平和的外交と、経済、文化、科学技術などの面からの協力ができるのです。

私たちは、平和を求める世界の市民と手をつなぐために、あらためて憲法九条を激動する世界に輝かせたいと考えます。そのためには、この国の主権者である国民一人ひとりが、九条を持つ日本国憲法を、自分のものとして選び直し、日々行使していくことが必要です。それは、国の未来の在り方に対する、主権者の責任です。日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、「改憲」のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を、いますぐ始めることを訴えます。

2004年6月10日

井上 ひさし (作家)	梅原 猛 (哲学者)	大江 健三郎 (作家)
奥平 康弘 (憲法研究者)	小田 実 (作家)	加藤 周一 (評論家)
澤地 久枝 (作家)	鶴見 俊輔 (哲学者)	三木 睦子 (国連婦人会)

「九条の会」は上記9名で始められたものが最初のもので、一年たった今日、このアピールに応じて、全国各地、各分野で2000を超える「九条の会」が発足しています。映画人、詩人、スポーツ、マスコミ、宗教者、科学者など各分野に及んでいます。最近では、人間国宝桂米朝(落語)、吉田玉男(文楽)、藤本義一(作家)さんたちの呼びかけで、「九条の会・おおさか」が結成されます。「九条の会」はインターネット <http://www.9-jo.jp/index.html> で検索が可能です。

九条の会

3 2005.6.15

だより

「九条の会」結成準備会

〒355-0315 小川町みどりが丘5-13-3(西田一雄気付け)

T/F 72 - 4445 Eメール nishidak@f8.dion.ne.jp

……第二回 わたしにとっての憲法



小川町にも「九条の会」を結成しよう、を合言葉に、「小川町九条の会結成準備会」が活動を始めました。皆様に「わたしにとっての憲法九条」を寄せていただこうと思っています。事務局に届けられた「メッセージ」から第二回(今回)は6名の皆様の「わたしにとっての憲法九条」を掲載(50音順)いたします。(どしどし「わたしにとっての憲法九条」をお寄せください。)

アジアの国々と共に九条を守ること

大塚 北田 宗子

松本先生のお講議ところに染みました。世界特にアジアの国々と共に九条を守ることが真の平和につながるのだと思いました。複数の考え方がある中で心をひとつに出来たらと思います。今後ともよろしく願いいたします。

九条のおかげで日本はここまでの発展ができた

角山 崎山 光一

九条のおかげで日本はここまでの発展ができたとは思っています。

九条があっても押し付けられた憲法だと言ったり、警察予備隊、保安隊だのと尤もらしい名前をつけたりして国民を欺瞞し、これほどの軍隊を作ってしまった権力者たちです。

ここで9条という歯止めがなくなった時は一気に徴兵制度までいってしまうぐらいの危機感を持つべきだと、私は思っています。

東京都の「君が代、日の丸」の例や意見どう配布で逮捕されるなど、最近の動きは思想統制がすすんでいます。気がついたときには反対もできなくなっていることでしょう。

この時期に「九条の会」を結成するという諸兄の活動に深甚の敬意を表し賛成します。

諸兄の活動を心から支持するものです。

党派、宗派などを超えて大同団結を!

木部 杉田 伸子

- 環境、人権、平和を大切に想う一人ひとりがひとつになって、大きなうねりを起こしましょう。
- 山の頂点が崩れないためにも、山の裾野をしっかりと守りましょう。一人ひとりの大きな団結を。
- 「まさか」が現実、いま立ち上がる時です。徴兵制度が支援制度としての押し付けが…党派、宗派などを超えて大同団結を。

君が代の『君』解釈は自由だが

角山 芹沢 昇雄

4月23日付本欄(毎日新聞「みんなの広場」事務局注)「君が代の『君』は大切な息子」を拝読した。解釈はそれぞれ自由である。しかし、過去に、この「君」を天皇と教えた歴史があり、「天皇の国」であったことを忘れてはならない。

戦後、敗戦国のドイツもイタリアも侵略、弾圧、虐殺の反省の上に、国家、国旗とも変えたが、日本はその反省もできずとうとう「日の丸」「君が代」を元に戻してしまった。

この投書を読んで、私は戦前、戦中使ってきた教科書に、教師たちが何の説明もなく敗戦後、墨を塗らせたことを思い出す。

その変身ぶりに当時の児童たちは非常に混乱し、教師への信頼をなくしたが、多くの教師は平然としていたのである。

このことに自責の念を感じた三浦綾子氏は教師を辞め、朝日新聞の 木のたけし氏は新聞社を辞めたが、そんな行動をとったのはほんの一部の人だった。

「日の丸」「君が代」の解釈や価値観を、処分までして強制する社会は、到底民主主義国家ではない。

(これは5月3日付 毎日新聞「みんなの広場」欄に掲載されたものをご本人が事務局にお寄せいただいたものです)

日本国憲法は自分のアイデンティティ

小川 藤村 吉則

1947年(憲法発布年)生まれの私は、日本国憲法を自分のアイデンティティと生きてきました。

諸々の世相の中で唯一この国にあって信じてきたのは、この憲法に他なりません。

この憲法を守ることは、一市民としての私の使命とさえ考えています。

「九条を守る」という一点での共同を広げましょう

中爪 本多 重信

今の日本国憲法のもとで責任政党として政権を担当してきた自民党が憲法を「改定」しようとしていることに対して、作家であり「九条の会」の代表の一人でもある井上ひさしさんは、「日本が政治的安定、経済的繁栄、国際的地位を獲得する実績を、日本国憲法のもとであげてきたのに、その日本憲法の受け入れを拒み「改定」しようとしている。これは普通の常識ではわかりません。」と批判していますが、その通りではないでしょうか。

2000年国連ユニバーサムフォーラム報告書は「各国は日本の憲法第9条のような戦争放棄事項を憲法に盛り込むべきだ。」と明記しましたが、世界平和の羅針盤にもなっているのが日本国憲法です。このように国内外に大きく貢献している日本国憲法はしっかり守り、大きく発展させ、とりわけ9条は世界に輝かせるべきではないでしょうか。「日本国憲法を守る!」「9条を守る」にの一致点で力を合わせ、ともにがんばりましょう。

お願い

結成総会にむけて、今後、「九条の会」への賛同者(50音順で)連名で広くアピールする「ピラ」を作成する予定です。(新聞折込や、駅頭配布を計画しています)まだお届けいただいていない方は、どうか別紙「賛同署名」とカンパを、お近くの準備委員か、西田あて(「署名」はFAX72-4445)送信で結構です)お届けください。

憲法を学習しましょう!



連続講座「憲法全文を読み通しましょう」

会場 図書館大会議室 時間 午後2時～4時

第1回 6月25日(土) 第2回 7月16日(土) 第3回 9月18日(日)
第4回 10月22日(土) 第5回 11月26日(土)

使う教材「あたらしい憲法のはなし 文部省」(「日本平和委員会」復刻) ¥200

名称 「憲法を読む会」

担当者 渡辺礼一(自由の森学園講師)

「映画 日本国憲法」をごらんになりませんか?

- 日時 2005年 7月 3日(日) 13時から(時間厳守)
- 場所 みどりが丘自治会館 会議室2・3
(みどりが丘ヤオコー西側。駐車場は少ないですから工夫してください。)
- 内容 DVDビデオ「映画 日本国憲法」(ジャン・ユンカーマン監督作品)

監督 ジャン・ユンカーマン について

1952年、米国ミルウォーキー生まれ。

画家の丸木位里・俊夫妻を取材した『劫火-ヒロシマからの旅-』(1988)は米国アカデミー賞記録映画部門ノミネート。9.11のテロ後にノーム・チョムスキーにインタビューした『チョムスキー9.11』(2002)は世界十数カ国語に翻訳・上映され、現在も各国で劇場公開が続いている。本作品は、日本国憲法制定の経緯や平和憲法の意義について、世界的な知の巨人たちが語った貴重なインタビュー集(79分)です。今後7月～8月渋谷の映画館でロングラン上映されるものです。

映画終了後、14時30分から役員会を予定しています。こちらも多くの方のご参加をお待ちしています。議題は「結成総会を目指す当面の運動について」「結成総会の内容について」です。

予告

「おがわ町九条の会」(仮称)結成総会

日時 2005年8月28日(日) 午後1時～4時

会場 リックおがわ(小川町民会館)和室

講演 高遠菜穂子さん



高遠菜穂子さん

先日イラクで拘束された三邦人の一人。イラクにとどまり、ストリートチルドレンの支援をしながら現地の声を日本政府に送りつづけている。千歳出身。「イラク・ホープ・ダイアリー」<http://iraqhope.exblog.jp/>をご覧ください。